

| | | | |
|--------------------|----------------------------|--------------|----|
| 平成29年度第3学年 学年通信 | Boys and girls , be | 第61号(通算149号) | |
| 『自立と協調～そして感謝と思いやり』 | Ambitious | 3月 | 7日 |

祝卒業！ 一人ひとりが人生の舞台の主役です。

明日の卒業式で、何を皆さんに話そうか、まだ決めていません。（先月、この文章の入力を始めました）だから、ダブってしまうかもしれないという懸念もありますが、つらつらと書いていくことにします。

これまでの15年間、いろいろなことがあって山あり、谷あり、大変だったでしょう？と多くの人に言われることと思います。その結果として義務教育修了という晴れの舞台に立つことができたということなのでしょう。義務教育の9年間を振り返る時、3年生の卒業は義務教育の最大行事で、小学校への入学式が2番目に重要な儀式だと思うのです。その9年間で皆さんの心身にどのような発育や成長をもたらし、知識や技能、学力というものにどのような発達をもたらしたのかは、9年前の自分と比べてみれば一目瞭然なのです。比べた時のその違いこそが、皆さん一人ひとりの努力の賜物であると言えると思います。そこで考えておいて確認してほしいことがあります。子どもである皆さんは、さも当然であると考えているのかもしれませんが、親や家族の皆さんがどれだけの愛情と労力を注いで、皆さんの成長を見守ってきてくれたか、ということです。子どもを守り、育てるのは、単に働いてお金を得るだけでは全く、成り立たないことなのです。なぜかというと、成長著しい皆さんはお金だけではなく、愛情や手間暇も全て欲しがるのが常なのです。ご家族は、それらの労苦を苦勞とせず、ずっと愛情を注いでくださったはずです。だから今、義務教育修了という晴れの舞台に皆さんは立つことができます。これまでの9年間、いいえ15年間のご家族の労苦を、4月になるまでに（進学先や就職先が決まったら）じっくりと聴かせていただく機会を持ってほしいと思います。まだ、皆さん本人も、ご家族も記憶にあるうちに確認しておいてほしいのです。いつか、自分も家庭を持って、家族をもった時に初めて味わうのではなく、周囲の方たちのご苦勞を知っておいてください。その時、心から感謝の気持ちがわき上がってくることだろうと思います。

これからの人生は、進学していても必ずいつかは就職しなければ生活していけなくなります。また納税という国民の義務も果たさなくてはなりません。その時まで、自分を磨く努力を怠らないでください。皆さんには無限の可能性があるとよく、言われます。本当にそう思います。でも、その可能性は何の努力もしない人には訪れません。可能性の方から目の前に現れてくれるというのは、たぶん難しいことなのです。少しでも飛躍を望むなら、ステップアップを求めるなら、そのための準備や努力を惜しんではいけません。ご両親からもらった生命の可能性をおろそかにするのは、とてももったいないことで残念なことなのです。自分の将来の可能性のために自分を磨くことは、誰かのためにするのではなく、自分だけのために他なりません。でも、その飛躍の将来をご家族は同じように喜んでくださるはずです。



英国の小学校にて（41歳）

私について言えば、磨く方法がわからず、試行錯誤の中から、大学に進学して教員を志しました。でも、就きたい職業の第1希望ではありませんでした。母子家庭で育った私は、大きく異動する転勤はできず、将来にわたって母と暮らせるように公務員を選んだのでした。ひたすら、大学ではラグビー部に打ち込みましたが、健康を害して退部し、その後はバイトで学費をかせぐ日々でした。でもずっと頑張ったおかげなのか、左の写真のように英国の小学校を訪問することができました。教員でしたから考えたこともなく、思いがけない海外出張でした。頑張ってきたことへのご褒美なのかなとも考えました。皆さんがどのような進路を選択し、どのような就職をしても、

ずっと頑張っていれば必ず、報われる時が来ると信じます。また、そのような時が来なければいけません。頑張っていてよかったと言える日がいつ来るのかは、人それぞれでしょうし、その時はわかりません。でもくじけず、あきらめず、努力を続ける人であってほしいと思います。そんな皆さんには、必ず良い時が訪れるとも信じています。

右は、修学旅行の合間のシーンで誰かに撮影されてしまった写真です。皆さんの思い出の写真を学校HPにアップするのに懸命になっている時で、撮影した人が誰なのかも私は知りません。この写真が60歳の私です。そう、信泉先生と同じく、私も今月いっぱい定年退職となり、教員生活にピリオドを打ちます。皆さんは若すぎるぐらい若い！ 無限の可能性を信じて飛躍していくことを胸に刻んでください。



アップに夢中（60歳）

皆さんを送る私は、身体を大切にしてくださいということも言いたいと思います。学生で勉学に励むのも、就職して懸命に働くのも、家庭生活を充実させていくのも、全てが身体が資本だと言えます。頑張りたい時に踏ん張れるためには体力が必要だとは誰もが認めるところでしょう。でも、その体力は健康でなければならないし、普段から鍛えておかなければなりません。私は、中学校・高校と美術部でした。それでも陸上短距離では時折、陸上部に負けない時もありました。大学ではラグビーを選びましたが、中高での身体の積み重ねがなく、当初はかなりえらかったことを覚えています。それでも何とかやっていたのですが、肝機能が正常に働かなくなって退部しました。退部してからもラグビーをしたくて社会人ラグビーに所属して試合には出場していましたが、2つの高校でコーチを10年間務めました。振り返ってみると私は小さい頃から身体が硬くて、跳び箱の足抜きが絶対できませんでした。柔軟性は60年間全くないと言っても過言ではないぐらいひどいものなのです。それでも、北アルプスの山々に登山したり、何とか体を維持しようとしていたのですが・・・皆さんも知っているとおおり、脊柱管狭窄症と頸椎症による神経症になってしまいました。23歳頃には100m走を10秒台で走っていて、ほんの小さい大会でしたが、優勝して新聞に名前も載ったこともある（教師になってからです）のに、想像できないことでした。

皆さんに考えてほしいことは、これからの人生で無理をおしてでも頑張らなくてはならない時は、あることでしょうか。その時は必死に取り組まなければならないと思います。でも、無理をおしてということと無茶をするというのは違うということ。そして長く取り組める生涯体育を見つけてほしいということ。何より自身の身体の健康を維持、増進するために努力を続けてほしいと思うのです。

体を鍛えず、無茶を続けてきた悪い見本が私なのかもしれません。4月に頸椎症、12月に脊柱管狭窄



千羽鶴（病室にて）

症の手術のために入院しました。生まれて初めて除夜の鐘を病院で聞きました。そのような傷心の私の病室に千羽鶴が届けられました。とても嬉しかったことを今でも今でも忘れることができません。この鶴を見た時、「こりゃ、修学旅行を教頭先生に代わってもらうわけにはいかないな」と思ったのでした。ありがとうございました。

Tough&Rough

身体を鍛え続け、健康に留意しつつ、前向きに頑張る皆さんでいてください。そう、タフな行いを目指してほしいと思います。でも、無茶をしてラフにはならないように。タフな行為は、賞賛されますが、ラフな行為は非難されてしまいます、そうレッドカードになってしまいます。決してLaughにならないことも中学校を卒業する皆さんの英語力で判りますね。皆さんの前途に幸あれと祈ります。卒業おめでとう!!! (山田)

